

「親と子のひろば」のおたよりも、今年度最終号となりました。コロナ禍で、人が集う場が次々と閉じる中、私たちの「親と子のひろば」は、何をどのように配慮したら開催が可能になるのか話し合いながら、年間33回開催することができました。今年度導入した予約サイトも、みなさまのご理解とご協力のお陰でスムーズに運用することができました。また、朝、子どもたちもまっすぐに水道に向かい手洗いをし、消毒ポンプの前では小さな両手を広げて消毒液を受け止める姿に、手洗いや消毒が子どもたちには「あたり前の日常」になっていることを感じます。



今年度最後の「親と子のひろば」の様子をお伝えします。

冬の味わい方

今年は雪が多かったですね。この日はSちゃん姉弟のお母さんが、「みなさんでどうぞ」と、そりを3台持ってきてくださいました。早速、Sちゃん(3歳11か月)が築山の上から初滑りです！

この庭を考えた庭プロジェクトの学生たちは「冬になったらそり滑りができるような築山にしたい」という思いもあり、築山の高さや傾斜を検討しました。

雪が少なくスピードは出なかったけれど、そり滑りを味わうことができました。



Hくん(2歳)は、お母さんと一緒に家の雪かきをしているそうで、“マイスコップ”持参で来てくれました。「カッコイイ！」スコップの使い方も慣れていきます。

庭で遊んでいると、氷を発見！お母さんが氷を取り出して見せてあげていました。途中で割れてしまうと、Hくんはその様子に釘付けです。

今度は、雪の球を水の中に入れました。すると、あっという間に白い球が水を吸って透明になりました。またまたHくんは釘付けです。



科学する心は、こういうところから育まれるのでしょうかね。

外で遊べない日は・・・小麦粉粘土！ 新聞紙遊び！

今日は風が強くて外では遊べないね。ではでは、手も足も使って小麦粉粘土をしましょう！ということになりました。まずは小麦粉のフワフワの感触を味わいます。そこに水を入れ、今度はベトベトの感触に変わりました。少し油を入れると手に付きにくくなります。塩も少々・・・これは腐敗を遅らせるためです。・・・こんな話をしながら、お母さん方と一緒に作ります。



子どもたちは黙って手を動かします。しかし、「感じている顔」です。「味わっている顔」です。みんないい顔しています。大人も「気持ちいいね～」「癒されるね～」と顔が緩みました。柔らかいものに触れると安心しますよね。子どもたちがお母さんの耳たぶやお腹(?)を触りながら眠るという話を聞きますが納得です。

こちらは、新聞紙遊びです。ビリビリと大人が破って見せると、子どもは目を丸くして「していいの!？」という顔をします。大人がしていることは、子どももしたがりです。(これは勘弁して・・・と思うときほど、したがりですよね!)。だから、子どもに味わってほしい時は、まずは大人が楽しむのが一番！私も息を切らせながら破いた新聞紙をまき散らせました。



穴を開けて、洋服のように着せてあげた Y ちゃんのお母さん。クルクルと筒状に巻いてあげるだけで、子どもは様々なものに見立てて遊びます。



最後は、袋に詰めて大きな雪だるまになりました。

天候が荒れている日、おもちゃを片付けて部屋を広く使って、こんな遊びはいかがですか？



一緒に子育てしてみなさまへ

「親と子のひろば」という空間で、時間をともにし、子育ての喜びや悩みを共有した保護者のみなさまからメッセージの投稿を募りました。ご投稿いただき、ありがとうございます。

娘も四月から幼稚園に通います。約四年通った親と子の広場を卒業です。遊んでいただいたお友だち、保護者の皆さま、ありがとうございました。

自分のペースで遊べるタイプの子のようで、広場にある動物のぬいぐるみを使って遊んだり、おままごと遊びを楽しんだり、ここ1年はお絵描きも楽しんで、充実して過ごせました。途中からはお庭もできて、砂遊び大好きで裸足で楽しんでいました。ニコニコしている娘をみて、喜びを感じながら過ごせました。

マスクを嫌がり、とある遊び場で入室を断られて以来、私は心折れてました。コロナ禍で子育てしなくてはいけないことに落ち込んでいました。夏に広場が再開し、ドキドキで顔を出しました。すると、先生がここでは子どもたちはマスクをせず遊んでいいよ、と言われ救われました。親と子の広場がマスク拒否の娘を連れて遊ばせられる唯一の貴重な場となりました。マスクは幼稚園と相談しながらつける練習させていきたいと思います。

みなさん、ありがとうございました。

Sの母より



生後2か月。みんなに祝福され、抱かれています



もうすぐ1歳。
よちよち歩きがかわいい！



4歳になりました。
この春、幼稚園入園です！

スタッフからみなさまへ

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、今までの当たり前の生活がいかに幸せだったのかを実感する年だったように思います。保護者の皆様は、自宅時間が増える中で家族の健康、家事、育児等と本当に多くの努力をされてきたのではないのでしょうか。人との繋がりが希薄化する中で、気軽に悩みを相談したり、子育ての体験を共感し合える場所は大切だなと感じます。私自身、先行きが見えない不安や孤独感等も子どもたちの笑顔に触れ、保護者の皆様と会い、笑い合う中で、気持ちが前向きになり、元気を頂いていました。保護者の皆様で子どもたちの成長を見守り、お互い様とみんなが受け入れ合えるひろばの温かい雰囲気大好きです。これからも大切にしていきたいと思います。保護者の皆様がひろばに参加して、リフレッシュして、前向きになれる居場所になれば嬉しいです。そして子どもたちがのびのびとやりたいことにチャレン

ジでき、また行きたいなと思ってもらえる場所になれることを願っています。子どもたちの成長を近くで見守れたことを幸せに思います。4月から入園される皆様、本当におめでとうございます。またぜひ遊びに来て下さいね。待っています。ありがとうございました。

富田祐香



私は春が苦手です。当たり前のように共に過ごして来た学生たちが巣立ち、子どもたちが入園と共に巣立ち、保護者の皆様とお会いすることもなくなります。「オイテケボリ」の気分になるのが、先生と呼ばれる者の春です。年度末の忙しさに追われる中で、学生の書いたレポートに目を通しながら涙もろくなり、広場の写真を選んでスライドショーを作りながらまたホロリ。巣立ちの喜ばしい季節なのに、つい感傷的になります。今年の春は、いつもと違う春。今回は私が巣立つことになりました。

思い起こせば7年前の春、「親と子のひろば」の平日開催を始めるための準備が私の仕事でした。スタートの頃は誰も来ない日もありました。近隣にポスターを貼らせていただいたこともありました。しかし、何よりもこの空間で共に過ごした皆様のロコミが、どんどん仲間を広げていきました。今では広報は必要なくなり、中身の充実に力を注げるようになりました。

「親と子のひろば」の空間は、ここに集うみんなが思い合い、労わり合い、優しい言葉と笑い声を作り出すものでした。この7年間、子育ての楽しさや喜びを隣で共に味わわせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。様々な困難の中でも折れずに続けてこられたのは、一人ではなかったからです。ここに集う仲間と「ワンチーム」という実感が常にあったからです。子育ても一人では苦しくなります。ここに仲間がいたように、いつも「お互いさま」の気持ちで心を緩められたように、どうかこれからもたくさんの人との繋がりの中で、親も子も育まれていきますようにと願うばかりです。

庭のチューリップも芽を出しましたよ。もうすぐ春です。

奥田美由紀

「親と子のひろば」の1年間を振り返って毎年上映していたスライドショーですが、今年度は毎回の定員が決まっています。全員で観ることが叶わないので、各自どこからでも観られるように考えました。(コロナ禍で遠隔授業の方法を身につけたため!) 視聴者限定・期間限定のYouTubeでお届けします! ご家族皆様でご覧ください。

準備ができましたら、登録者のみなさまにメールでご案内しますね。

今後の予定

3月は、お休みです。

4月以降の予定は、HPでご確認ください。



桜の聖母短期大学

🏠 福島市花園町 3-6

☎ 024-534-7137

(代表)

